

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん161）		
タイトル	森林インストラクターが語る千葉の魅力（第4回）		
実施日時	平成31年3月22日（金）18時45分～20時45分		
実施場所	船橋市中央公民館 5階第7会議室		
受講者	13名	FIC会員	12名

### 活動の内容 千葉の森林インストラクターとして知っておきたいテーマと討議を通じた掘り下げ

#### （1）植村講師 「君津の養蜂」

##### ① ミツバチの話

- ハチ目の分類（6種の分類）
- 巣づくりの実態（ローヤルゼリーの働きなど）
- 社会性を持つ昆虫として1つのコロニーでの基本的な分業体制（女王蜂、働き蜂、雄蜂）と不満のない分業体制の仕組み（リーダーがいなくても、それぞれのハチが簡単なルールにより反応して分業し、刺激に対する反応に個体差があることにより全体としての分業体制の整合性がとれている）によりミツバチ社会が成立
- ミツバチの1年



##### ② 養蜂の話

- 養蜂の歴史（太古からの人類とのつながり、19世紀の可動巣枠式巣箱以降の近代養蜂、明治以降の日本の養蜂）
  - 気まぐれな日本ミツバチと家畜としての西洋ミツバチ
  - 蜂蜜自給率（6%）と輸入先（中国が70%）
  - 蜜源植物と蜂蜜の種類（単一の蜜と百花蜜）
  - ミツバチを愛する君津の養蜂家・鈴木さんの話
  - ヒマラヤオオミツバチの蜂蜜の試食
- など、多岐に渡る話題が提供された。



縄文海進

#### （2）稲岡講師 「千葉県央・北総部の自然と植生」

##### ① 千葉県の特徴

- 標高が低く、森林率が大阪府と並び日本最低（意外でした）
- 関東ローム層の堆積等で、日本で一番土壌が新しく、谷津が多い。広大な北総台地には江戸時代に牧が置かれた。
- 北総地域は、江戸以降マツノザイセンチュウによる松枯れが発生するまでは、松、特にアカマツの人工林が多かった（しかしマツタケは採れなかった、何故か？）。
- 千葉県の常緑広葉樹林には、南総から茨城県に飛ぶ植生がある。

##### ② 県央・北総の代表的な森（スタジイ林など）

##### ③ 講師からのサジェスション

- 植生が飛ぶことがあるので、千葉県だけをカバーするのではなく、近隣の森林インストラクターなどとの交流を大切にして見聞を広めることが大切。
  - 新川・花見川流域、稲毛地区の縄文時代における海岸・湾岸と現在のタブノキの分布には興味深いものがある。自分の足で稼いだ話を伝えると説得力が増す。
- 最後に、講師より千葉県インストラクターのための参考文献一覧が紹介された。